| 授業科目名・形態 | 司法福祉論　　講義 | 必修・選択の別 | 選択 | 単位数 | 2 |
|---|---|---|---|---|---|
| 科目担当者氏名 | 藤田　博章 | 実務経験の有無 | 有 | 開講期 | 4年前期 |
| 科目ナンバリング | W4-3025spR | | | | |

**【授業の主題】**

刑事司法は、犯罪・非行をした人に対応するものであるが、福祉やソーシャルワークとも関係が深い。近年、高齢入所受刑者及び障害のある受刑者が増加していることと高齢刑余者及び障害刑余者の再犯率が高くなっている。そのようなことをふまえ、刑事司法とかかわる人には様々な支援ニーズがあることが広く認識されるようになり、「司法と福祉の連携」の必要性が指摘されている。本科目は刑事司法・少年司法分野における手続きや制度上の処分に関して学び、「更生保護」の理念と仕組みを理解することを通して、罪を犯した人に対する福祉的支援を学び、その意義を理解する。

**【到達目標】**

1）刑事司法の近年の動向と制度の仕組みを理解する。
2）刑事司法における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割について理解する。
3）刑事司法の制度に関わる関係機関等の役割について理解する。

**【授業計画・内容】**

第 1 回　オリエンテーション・刑事司法と福祉総論
第 2 回　社会と犯罪
第 3 回　犯罪原因論と対策
第 4 回　刑罰とは何か
第 5 回　刑事司法
第 6 回　少年司法
第 7 回　施設内処遇①　－成人－
第 8 回　施設内処遇②　－少年－
第 9 回　社会内処遇①　－更生保護の理念と概要－
第 10 回　社会内処遇②　－更生保護の実際－
第 11 回　多様なニーズを有する犯罪行為者①　－精神障害者を対象とした医療観察制度－
第 12 回　多様なニーズを有する犯罪行為者②　－高齢者・障害者による犯罪・非行と福祉－
第 13 回　多様なニーズを有する犯罪行為者③　－アディクションを抱える人と刑事司法－
第 14 回　犯罪被害者等支援
第 15 回　コミュニティと刑事司法

**【授業実施方法】**

基本的に講義形式で行う。また、4 年次科目のため、国家試験対策を適宜実施する。

**【事前・事後学習】**

社会福祉士及び精神保健福祉士国家試験の必須科目である。薬物犯罪、交通犯罪、サイバー犯罪、児童虐待、ＤＶ、ストーカーの犯罪、外国人による犯罪、高齢者や精神障害のある者による犯罪など、ニュースやインターネットで調べ、YouTube の動画を視聴し、各種犯罪の動向と各種犯罪者の処遇の動向を確認してほしい。レポート作成、課題学習、リアクションペーパー、試験対策等を含めトータル 60 時間程度の自主学習を行うこと。

**【主な関連する科目】**

精神保健福祉制度論、障害者福祉論、高齢者福祉論、児童福祉論

**【教科書等】**

最新　社会福祉士養成講座 10　刑事司法と福祉（第２版）、中央法規、2025

**【参考文献】**

『犯罪白書 令和６年版』　法務省　法務総合研究所編

**【成績評価方法】**

成績評価は、授業への取り組み姿勢（10%）、レポート（90%）で総合的に評価する。

**【実務経験及び実務を活かした授業内容】**

社会福祉士・精神保健福祉士としての実践の経験から、罪を犯した対象者の課題をソーシャルインクルージョン、地域共生社会の視点から考察していきたい

**【学生へのメッセージ】**

刑事司法手続の用語が独特なので戸惑うことが多々あると思うが、刑事司法の仕組みは非常に合理的で意義深い理念で成り立っている。本講義のなかで、社会福祉士、精神保健福祉士の国家試験にも触れていき、更生保護の実際について考察し、刑事司法と福祉のかかわりを理解するようにしてもらいたい。